
刀でしたよね？

紅蓮の疾風

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

刀でしたよね？

【Nコード】

N5944S

【作者名】

紅蓮の疾風

【あらすじ】

刀が渡されたときの話

渡された刀

とりあえず物語を進める上でこの話はしておかなければいけないだろう。

まずは俺の名前は佐藤來斗《さとらいと》。今日で15歳の中学3年の男子だ

あれは14歳の誕生日のことだったか。

なぜ14の頃の話をするのか、というのは気にするな。

いつもは「おめでとう」しか言わなかった爺さんがプレゼントがあるといい、俺を呼んだのだった。

「…で、爺さん。なんか嫌な予感がするが何を渡す気だ？」

爺さんはよくわからない古いものを集めるのを趣味としている。

嫌な予感がするのも、集めた中の何かを渡されるかもしれないという考えがさせている。

「そついやそれで呼んだんだったか。ちょっと待ってる。」

なんで準備してないんだよ。そして足が痛いから早くしてくれ。

「あつたあつた。これだ」

なんだこれ。

刀じゃないか。

銃刀法違反とかに引つかからないのか。

「そんな危険なもの渡そうとしてるのかよ」

本気で遠慮したかった。

渡された刀（後書き）

終わり方が中途半端ですね。
続き考えたら書きます

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5944s/>

刀でしたよね？

2011年10月8日15時59分発行